

## 学位論文の要旨

学位論文の題目:[読み書き能力の発達 - 就学前から小学2年生までの追跡的研究 - ]

指導教授：小林勝弘 教授

申請者氏名：[花房 香]

共著者氏名：[ なし ]

キーワード：読み書き，発達，平仮名，漢字，発達性読み書き障害

日本語話者の児童の読み書きの発達を明らかにするため、就学前における読字の実態を調査するとともに、その児童の小学2年生までの3年間にわたる読み書き能力の獲得状況を継時的に追跡した。これらの結果から就学前検査の有用性と早期からの学習支援の必要性について考察した。

対象は3年間全ての課題を施行できた児童92名（女42名、男50名）で、就学前は平仮名同定検査（HNT）と絵画語い発達検査（PVT-R）、小学1年生では平仮名読み書き計5課題、小学2年生では小学1年生の5課題に漢字読み書き課題を加えた計7課題を施行した。

HNTの得点と小学1、2年生の全課題の成績とは有意な相関を示した。HNTの中央値は40点満点の38点（5～40点）で、69名（75.0%）が32点以上であり、多くの児童は就学前に平仮名読字がほぼ可能であった。HNTが32点未満であると小学1、2年生の課題で異常値を示しやすく、HNTで異常値（18.5点以下）を示した6名中3名は、小学1、2年生で2課題以上に異常値を示した。

就学前のHNTは就学後の読み書き能力を反映するため、スクリーニング検査として有用である。就学前でHNTが困難な場合は、就学後に発達性読み書き障害をはじめとする学習困難を生じる可能性があることを念頭に置き、早期から適切な学習支援に繋げる必要がある。